

やんばらあ～ねっと

第36号

がつ にちにちようび こくりつりょうようじょおきなわあいらくえん ちーむおきなわしゅさい
7月 17日 曜日、国立療養所 沖縄愛楽園でチーム沖縄主催の

びーちくりーんあっぷ さんか ごご くりーんさぎょう さんか ひと えんない
ビーチクリーンアップに参加しました。午後、クリーン作業に参加する人々は園内にある

こうりゅうかいがん しゅうごう こうりゅうかいがん はんせんびょう ただ ちしき
交流会館に集合しました。交流会館は、ハンセン病の正しい知識を

いつぱん ひろつた あいらくえんないがい ひと こうりゅう ばしょ さくねん
一般のみなさんに広く伝え、愛楽園内外の人が交流できる場所として昨年

なつ くに おこな かくりせいさく げんざい づづ はんせんびょうかいふくしゃ
夏に国が行った隔離政策によって現在まで続いているハンセン病回復者の

くる きちよう てんじぶつ れきしりょうかん とも おーぶん
苦しみをたくさんの中貴重な展示物で再現した歴史資料館と共にオープンしました。

びーち せいそう こうりゅうかいがん こうどう はんせんびょうかいふくしゃ たいらじんゆう
ビーチを清掃するまえに、交流会館の講堂でハンセン病回復者の平良仁雄

こうわ き じんゆう あいらくえん こくりつ かんじや
さんの講話を聞きました。仁雄さんは、愛楽園はもともと国立ではなく患者たちが

あんじゅう ち もと じぶん て はんせんびょうかんじや ねつしん きりすと
安住の地を求め自分たちの手でつくったこと、ハンセン病患者で熱心なキリスト

きようと あおきけいさい しょうがい はなし けいさい かんじや はくがい う
教徒でもある青木恵哉の生涯の話をしました。恵哉ら患者たちは迫害を受け

じぶん あんじゅう ち さが もと かくち てんてん みず な じゃるまとう
けながら自分たちの安住の地を探し求めて各地を転々とし、水さえ無いジャルマ島と

むじんとう く げんざい おきなわあいらくえんない のうこつどうしゅうへん ち
いう無人島で暮らし、そして現在の沖縄愛楽園内の納骨堂周辺の地にたど

つ けいさい かんじや とち か じぶん て つく あいらくえん
り着きました。恵哉ら患者たちで土地を買い自分たちの手で作ってきた愛楽園でした

よぼうほうせいでいい きょうせいにゅうしょ ばしょ じんゆう けい
が、らい予防法制定で強制入所の場所になってしまいました。仁雄さんは、恵

さい ひじょう ねっしん きりすときよう しんこう きりすときよう こきゅう
哉が非常に熱心にキリスト教を信仰しており、キリスト教を呼吸していたからこそ

しごと けいさい さべつ はくがい くる つづ しようと
の仕事ができたとおっしゃいました。恵哉は差別と迫害に苦しみ続けた生涯をおくた

はずですが、亡くなるとき「幸せであった」とおっしゃったそうです。この言葉はしなければならない

しごと じぶん ささ い ことば おも ご
仕事に自分のすべてを捧げまつとうしたからこそ言えた言葉かもしれないと思いました。その後、

くりーんかつどう のうこつどう ほう
クリーン活動のため納骨堂の方へ

ばしょ いどう のうこつどう こえ
場所を移動し、納骨堂、そして声

こども ひ けんか もく
なき子供たちの碑に献花し黙とうしま

のうこつどう あいらぐえん な
した。納骨堂は、愛楽園で亡くな

しごと こきょう かえ
り死後も故郷に帰ることができない

かた ねむ たいせつ ばしょ こえ
方が眠る大切な場所で、声な

こども ひ にんしん かんじや きょうせいきて だたい
き子供たちの碑は妊娠した患者が強制的に堕胎させられたことによって生まれること

こども たましい しず いれいひ
のできなかつた子供たちの魂を鎮める慰靈碑です。



くりーんさぎょう ひ
クリーン作業が始まったのはだいぶ日

かたむ ひざ
が傾いたころでしたが日射しがまだま

きょうれつ にし ちよくしゃにつこう
だ強烈で西からの直射日光



あびながらビーチの漂着ゴミをみんなで片付けました。クリーン作業で汗をながしたあと

のうこつどうと、納骨堂のとなりの広場で主催者が準備してくださったごちそうをみんなで語り

あいながら食事をしていると東の空にきれいな虹がでていました。ハンセン病回復者

の方から直接知っておかなければならない本当の歴史を聞き、大切な場所をみんな

よいべんとちむおきなわあいらくなんできれいにするというとっても良いイベントでした。チーム沖縄のみなさんと愛楽園のみなさん、ありがとうございました。

がつにちにちかかんはままつしあくとしていままつじるけんしゅうおよ
6月27日～29日の3日間にわたり浜松市のアクティティ浜松にてJIL研修及び

そとかいひらおきなわれんじつあつひびつづ
総会が開かれました。このころの沖縄は運日むし暑い日々が続いておりましたが、

はままつたいへんすずかかんす
浜松では大変涼しい3日間を過ごせました。そして、チャンスさえあれば名物のうなぎ

たかんが
を食べてみたいと考えていました。

けんしゅうしょにちふろぐらむこくないしうがいしゃしさくじょうせいほうこくねんど
研修初日のプログラムは、国内の障害者施策の情勢報告と2016年度の

じるそとかい
JIL総会でした。

じょうせいほうこく でいーぴーあいにほんかいぎ おのうえ ねんもんだい
情勢報告ではまず、D P I 日本会議の尾上さんによる「2019年問題」

みす こくない しょがいしゃしさく ほうこく ねん さべつ
を見据えた国内の障害者施策についての報告でした。2019年は、差別

かいしおうほう そごうしえんほう みなお しょがいしゃけんりじょうやく こくれん
解消法、総合支援法の見直し、また障害者権利条約について国連に

ていしゅつ さいしょ せいふほうこくしょ しんさ よくねん ねん とうきょう
提出された最初の政府報告書の審査、そして翌年2020年の東京

おりんぴっく ぱらりんぴっく む ぱりあふりー かん もんだい おなじき さまざま
オリンピック・パラリンピックに向けてのバリアフリーに関する問題など、同じ時期に様々な

じゅうようかだい しごと ひろ しや み
重要課題がかさなることから、仕事をするうえで広い視野でのごとを見なければならないと

べんきょう つぎ おな でいーぴーあいにほんかいぎ さとう さべつ
いうことを勉強しました。次に同じく D P I 日本会議の佐藤さんによる差別

かいしおうほう かん ほうこく ぜんこく おこな さべつかいしおうほう いわ
解消法に関する報告がありました。全国で行われた差別解消法のお祝い

ぱれーど しゃしん み ぜんこくてき よ あびーる
パレードの写真を見せながら全国的にとても良いアピールになったとおっしゃいました。そし

ねんご みなお む ごうりてきはいりよ みんかん どりょくぎむ
て、3年後の見直しに向けて合理的配慮が民間では努力義務にとどまっていることなど

かだい さべつ まどぐち そくだん じれい ふ みなお
の課題があるので、もし差別を避けたらどんどん窓口に相談して事例を増やし、見直しに

はなし ひ はなし き われわれ しごと
つなげようというお話をしました。この日のお話を聞いて、我々のひとつひとつの仕事が、

こくない ほうりつ よ こくれん けんりじょうやく しんさ かか
国内の法律をどんどん良くしていくことや、国連の権利条約の審査にも関わっていて、

かいじょう あつ ぜんこく しーあいえる ひと おな かくちほう
この会場に集まっている全国のCILの人たちが同じように各地方でがんばって

しごと もんだい おな ほうこう む すす かん
仕事をし、いろんな問題をかかえながらも同じ方向へ向いて進んでいるということを感じ

よ
ることができます。



かめ ごぜんちゅう ぶろぐらむ
2日目、午前中のプログラムは

しーあいえるひゅーまんねっとわーくまもと
C I L ヒューマンネットワーク熊本

ひのくま くまもとだいしんさい
の日 隈さんによる熊本大震災

きゅうえんかつどう ほっこく
救援活動の報告でした。お

はなし まえ がつ にち ほんしんごくまもとがくえんだいがく ひなん ようす
話の前に4月16日の本震後の熊本学園大学における避難の様子をまとめた

びでおみ しーあいえる りょうしゃ いがい ひさい しようがい
ビデオを見せていただきました。C I L の利用者さん以外にも被災した障害のある

かたがた ひなんじょ う い じしん ひさいしや み じんざいぶそく ふみん
方々を避難所に受け入れ、自身も被災者の身でありながら人材不足のなか不眠

ふきゅう かいじょ へるぱー ようす ほんとう むね いた ゆうじ さい じぶん
不休で介助にあたるヘルパーさんの様子は本当に胸が痛み、有事の際に自分もあ

はたら つづ えいぞう み じもんじとう じゅんび
のように働き続けられるか映像を見ながら自問自答し、こころの準備だけでもしておか

おも ひさいせいかつ とうじしゃみずか けん しょくいん へるぱー
なければと思いました。また、被災生活のなか、当事者自ら県の職員にヘルパー

ふそく げんじょう うつた かいぜん もと すがた いんしょう のこ
不足の現状を訴え改善を求める姿もとても印象に残りました。

つき くまもとがくえんだいがく よしむらせんせい かくしーあいえる ひと ひなん
次の熊本学園大学の吉村先生は、まずは各 C I L の人たちの避難につ

かくせんたー とうじしゃだんたい けいかく た じゅんび
いて各センターで当事者団体ならではの計画をしっかりと立てて準備をしましょうというお

はなし 話をしました。

ごご ぶろぐらむ、ひ にほん かいがい しーあいえる 午後のプログラムは、この日のためにはるばる日本にいらっしゃった海外のCILのみなさ

はなし き あめりか はっぴょう き ぎょうせい しーあいえる んのお 話 を聞きました。まず、アメリカのみなさんの発表を聞いて、行政とCIL

かか ふか すたつふ べんごし にほん の関わりが深いことやスタッフのなかに弁護士がいることがわかりました。いろんなことが日本よ

すす べんきょう おも つぎ こすたりか しーあいえる りも進んでいて勉強すべきところがたくさんあると思いました。次にコスタリカのCIL

もるふお じむきよくちよううえんでい かつどうほうこく き しょうがいしゃ じりつ モルフォから事務局長ウェンティさんの活動報告を聞きました。障害者の自立

そくしん ほうりつ とお とらい おこな ぶじさいご ある とお こくない 促進のための法律を通すためにTRYを行いました。無事最後まで歩き通し国内の

ちゅうもく あつ はっぴょう はなし 注目を集めたという発表はとてもいいお話をでした。

かめ さいご こうりゅうかい はまつ めいびつ あつ べんとう かいがい 2日目の最後は交流会で浜松の名物を集めめたお弁当をいただきながら海外か

げすと じゅんび きかく たの しずおかげん らのゲストをおもてなしするために準備されたいろんな企画で楽しみました。静岡県のゆる

きやらだいしゅうごう こーなー でんとう はまつ たいへんたの す キャラ大集合のコーナーや伝統の浜松まつりをみせてもらい、大変楽しく過ごしました。

た。

さいしゅうびごぜん ぶろぐらむ しーあいえる じっさい しごと かつやく せいしん 最終日午前のプログラムは、CILで実際に仕事をして活躍している精神

どうじしゃさんめい かた はなし き はなし まえ いちにち せいかつ 当事者三名の方のお話を聞きました。お話を前にそれぞれの一日の生活を

みじか びでお み しごと せいかつ すたいる さんしゃさんよう まとめた短いビデオを見ました。仕事や生活のスタイルは三者三様で、それぞれ

しょくば じたく さまざま くふう 職場でも自宅でも様々な工夫をしていることがよくわかりました。また、職場では特に、まわり

ひと しようがい たい りかい たいせつ おも げんざい せいかつ の人たちの障害に対する理解がとても大切だと思いました。現在のように生活

ができるようになるまでにはきっといろいろな苦労があったろうと想像しながらビデオを見ました。

精神当事者の方の職場での合理的配慮のことも考え方させられました。そして

三名の方のお話をうかがって、それぞれの方が行っているCILでの活動が

すばらしいと思いました。障害当事者のことを第一に考えて、必要だと思えばどこ

でも出かけていく活動力や、相談やピア・カウンセリングの仕事など、自身の障害と

しっかりと向き合いながら当事者の立場から社会を変えるための仕事を坦々と行って

いる姿は、見ていて元気がでした。

午後は、他の沖縄のCILのみなさんといっしょに浜松にあるCILごねくとの

事務所を見学に行きました。他県のCIL事務所を見せてもらう機会はなかなかあります

たいへんきちょうじかんせんで大変貴重な時間でした。

今回のJIL研修も全国のみなさんに会えて良かったです。うなぎは高級すぎて

残念ながら今回はあきらめてしまいましたが、帰りに空港でうなぎパイをおみやげに買って

かえりました。